

憲法しんぶん速報版

第 145 号

2006 年 7 月 25 日

発行＝憲法会議

Tel 03-3261-9007

Fax 03-3261-5453

9 条改憲の真のねらい明らかにしつつ

侵略戦争美化キャンペーンに反撃を

麻生外相は、北朝鮮のミサイル発射について、「金正日に感謝しなければならない」とホンネを吐露。小泉首相は、8月15日に靖国神社に参拝する意図を撤回してはいません。9条擁護の国民世論を切り崩そうと、さまざまなキャンペーンが強められていることを軽視せず、的確に反撃していくことが重要になっています。

米軍再編の内容を学習

7月14日に開かれた担当常任幹事会では、日本平和学会会員の松竹伸幸氏から、「小泉外交の到達と未来の象徴一日米共同文書」のテーマで報告を受け、米軍再編がめざすものについて学習しました(松竹氏の報告は『月刊憲法運動』7月号に収録)。

この日の担当常任幹事会では、改憲手続法案、教育基本法改悪案、防衛庁設置法・自衛隊法改悪案、共謀罪新設など、憲法の基本原則を侵害し、明文改憲にも直結する法案が軒並み秋の臨時国会に継続審議となっていることについて論議。とりわけ、9条擁護の国民世論を切り崩そうとするキャンペーンが強まっていることから、こんにちの改憲問題のねらいと背景を学習する

《憲法会議学習会》

北朝鮮のミサイル発射問題 と「敵基地攻撃」論

- ◆日時 8月10日 午後2時
- ◆会場 神保町コスモス館(申込者に地図発送)
- ◆講師 吉岡吉典・前参院議員
- ◆参加費無料
- ※事前申し込み制(電話・ファックスによる申し込み可)

ことの重要性が強調されました。そのため憲法会議としては今後、改憲の背景となる情勢についても系統的に学習していくこととし、『月刊憲法運動』の編集にも反映させていくこととしました。とりあえず8月は北朝鮮のミサイル発射をめぐる問題について、上記のような学習会を開くことにしています。

新たな波紋広がる靖国問題

「A 級戦犯靖国合祀 昭和天皇が不快感」と、昭和天皇が靖国神社を参拝した理由が A 級戦犯合祀にあることを「日経新聞」(7 月 20 日付)と報じたことによって、靖国問題の新たな論議が起きています。

◎侵略戦争肯定の企て

最大の焦点は、A 級戦犯合祀にかかわる問題。靖国神社と戦犯合祀を支持する勢力は、戦犯を合祀した靖国神社に、三権の長をまず参拝させ、それをステップに天皇の参拝を実現する構想を描いていました。それは、A 級戦犯合祀を推進した靖国神社の松平永芳宮司が、「『すべて日本が悪い』という東京裁判史観を否定しないかぎり。日本の精神復興はできない」(『諸君』92 年 12 月)と述べているように、侵略戦争の指導者を戦犯とした極東裁判を否定し、そのことをつうじて先の戦争が侵略戦争であることも否定しようというのです。

先の戦争の最高責任者である昭和天皇が、靖国神社への A 級戦犯の合祀に「不快感」を示したことは、この構想が破たんしたことを意味します。

◎アジアでの孤立を恐れる財界

「日経」記事は、元宮内庁長官の富田朝彦氏が遺したメモをもとに書かれたものですが、「日経」はこのメモを昨年秋に入手していたといいます。それがなぜ、この時期に公表されたのか? 『AERA』(7 月 31 日)によると次のと

九条の会が交流集会の報告集

「九条の会」は 6 月 10 日に開いた「全国交流集会」の報告集を発行しました。

◇収録内容

<全体会>

▽呼びかけ人あいさつ(三木睦子、鶴見俊輔、澤地久枝、加藤周一、小田実。大江健三郎)

▽各地・各界報告(新潟・阿賀野の会、千葉・小金原の会、沖縄・大学人の会、大阪・夕陽丘高校の会、神奈川・横須賀市民の会)

<分散会>

▽各分散会司会者のまとめ

▽各分散会での発言要旨 245 名

<その他>

▽「九条の会」からの訴え

▽地域・分野の会結成時様今日

◇B5判 116 頁 定価 1000 円

おりです。

奥田前経団連会長ら財界は、小泉首相の靖国参拝によって経済交流と強まっている中国との関係悪化を危惧し、再三にわたって、小泉首相に「靖国の参拝は慎重に」と述べたが聞き入れられない。そこで、「日経」と連携してスクープ。しかもこの日は、小泉首相の有力な後継者とみなされ、靖国問題についても小泉路線の継承を主張している安倍晋三官房長官が政権構想とも言うべき著書『美しい国へ』の発売された日です。

こうした財界の動きも、営利本位から出たものにほかなりませんが、靖国神社の論理ではアジアの国々につきあっていけないことを示しています。